

# 薬局薬剤師・保険薬局の価値向上に向けた提言 〈概要版〉

2023.3

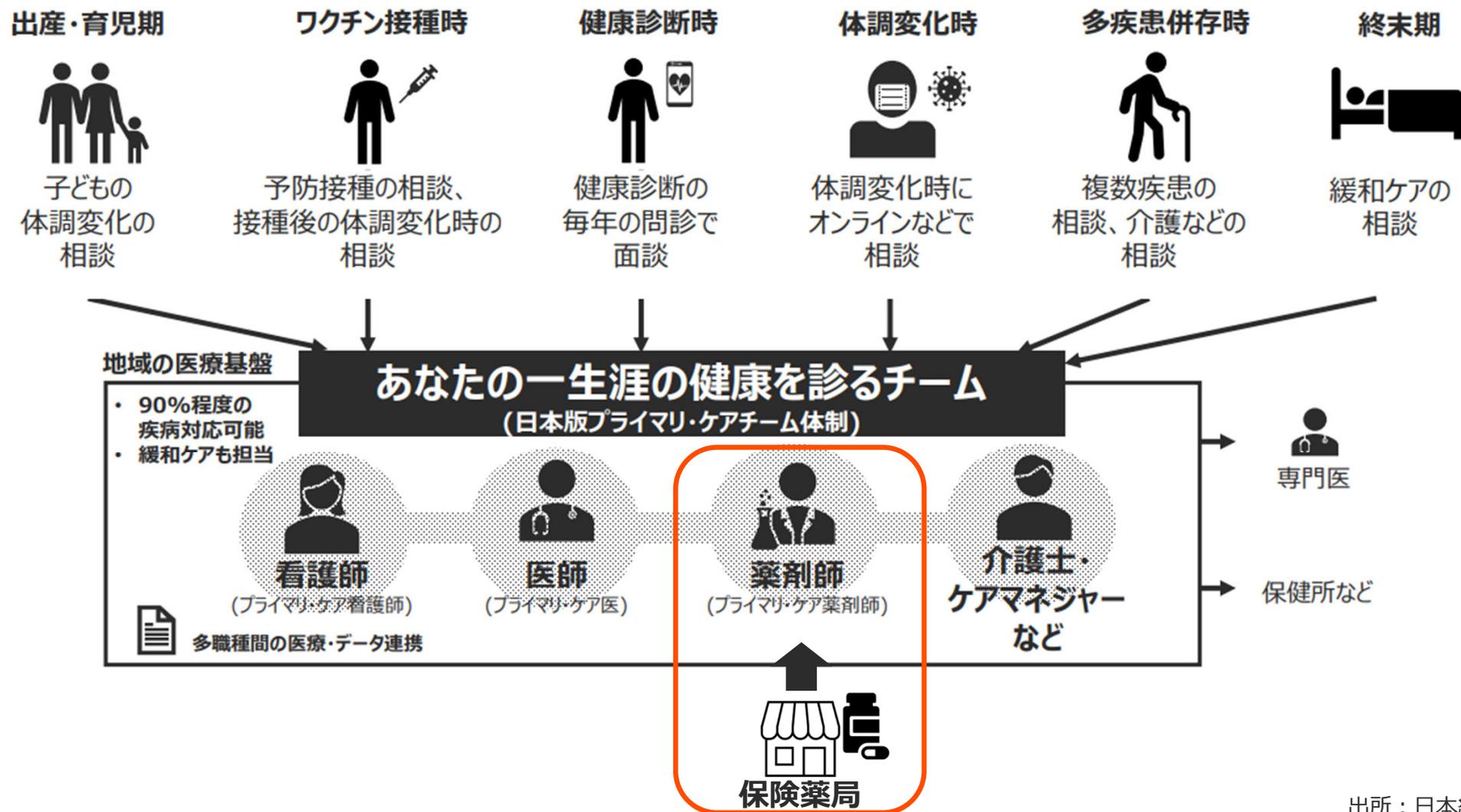
株式会社日本総合研究所  
持続可能で質の高い医療提供体制構築に向けた研究チーム

**本提言は、株式会社日本総合研究所  
「持続可能で質の高い医療提供体制構築に向けた研究チーム」が  
公正・公平な視点を心がけて、  
国民・医療従事者視点で中長期的な観点から社会貢献をしたいと考え、  
薬局薬剤師・保険薬局の価値向上に向けた  
意見をとりまとめ、提示するものである**

**我々は、中長期的に検討が必要な重要課題が  
あるべき姿とともに骨太に記載され、  
具体的な改革に向けた道筋が工程化されることを望んでおり、  
本提案については国民、医療提供者、保険者、  
政府（厚生労働省、財務省等）、経済界・産業界などの関係者と  
目指す方向性の一致は可能と考える**

# 【目指す方向性】国民の一生涯の健康を地域多職種連携で診る プライマリ・ケアチーム体制整備

国民一人ひとりが一生涯の健康を診るチームを持ち、その中で薬局薬剤師が役割を発揮すべきでないか。また、価値ある役割を薬局薬剤師が発揮できるために、保険薬局が支えるべきではないか。



出所：日本総研作成

# 【提言の全体像】プライマリ・ケア推進体制における保険薬局・薬局薬剤師に関する提言

プライマリ・ケア推進体制における保険薬局・薬局薬剤師に着目し、以下の①～④の提言を行う。

## — プライマリ・ケア推進体制における薬局薬剤師・保険薬局の現状 —

### 国内外における、 保険薬局・ 薬局薬剤師の 役割

- 「患者のための薬局ビジョン」が公表された2015年以降、認定薬局等の制度化により、徐々に薬局薬剤師が担うべき機能・役割が具体化されてきた
- 一方、薬局薬剤師がどのような機能・役割を発揮するのかは個々の薬局薬剤師や保険薬局に依存している部分も多い

- 薬局薬剤師の機能・役割や価値が明確になっていないことに加え、機能・役割や価値がどれくらい実現されているか、その実態が把握されていない

- 健康サポート薬局や認定薬局（地域連携薬局・専門医療機関連携薬局）に求められる機能・役割は明確になっているものの、機能・役割の実態は明らかとなっていない
- 薬局薬剤師が価値ある機能・役割を十分に発揮するためには、保険薬局の機能・役割に変革が求められる

### 薬局薬剤師の 役割に関する、 多職種や国民 からの認知

- 各種調査結果、有識者や保険薬局の現場で活躍する薬局薬剤師に共通する認識として、プライマリ・ケアチームや国民から、薬局薬剤師や保険薬局はどのような存在であるか、何をしてくれるのか、何ができるのか、その認知が低いことが挙げられる

### 【提言①】

- 薬局薬剤師の機能・役割や価値の明確化

### 【提言②】

- 計測・改善による、薬局薬剤師の機能・役割や価値の浸透

### 【提言④】

- 薬局薬剤師が機能・役割を発揮するための保険薬局のあり方

### 【提言③】

- プライマリ・ケアチームや国民からの薬局薬剤師の認知向上

出所：各種調査を基に日本総研作成

## 【提言の全体像】各提言の関係性

提言②③の活動推進により提言①を加速する、提言④により提言①の薬局薬剤師が機能・役割を発揮するために保険薬局が機能することを旨とする、という関係性である。

【目指す方向性】  
国民の一生涯の健康を地域多職種連携で診るプライマリ・ケアチーム体制整備

<薬局薬剤師>



【提言①】  
薬局薬剤師の機能・役割や  
価値の明確化

<保険薬局>



【提言④】  
薬局薬剤師が機能・役割を発揮する  
ための保険薬局のあり方

保険薬局が  
薬局薬剤師  
を支える

提言②③の活動推進  
により①を加速

【提言③】  
プライマリ・ケアチームや国民からの薬局  
薬剤師の認知向上

【提言②】  
計測・改善による、薬局薬剤師の  
機能・役割や価値の浸透

出所：日本総研作成

## 【提言①】プライマリ・ケア推進における薬局薬剤師の機能・役割、価値

薬局薬剤師に期待される機能・役割として、医師や病院薬剤師、看護師等との多職種連携、服薬指導、健康指導、患者教育・フォローアップを中心とする患者指導、各種疾患に対するケアが挙げられる。

薬局薬剤師の機能・役割		薬局薬剤師の価値
多職種連携	医師と連携した処方評価（疑義照会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 処方適正化</li> <li>• ポリファーマシー是正</li> </ul>
	医師への処方提案（減薬提案）	
	服薬情報連携（薬薬連携）	
患者指導	服薬指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 処方適正化</li> <li>• ポリファーマシー是正</li> <li>• 服薬アドヒアランス向上</li> </ul>
	健康指導、受診勧奨	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域住民の健康向上</li> <li>• 疾患の重症化予防</li> </ul>
	退院後の患者教育・フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 退院後の臨床転帰の改善</li> </ul>
各種疾患に対するケア	各種疾患の早期発見・重症化予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 早期発見</li> <li>• 重症化予防</li> </ul>
	慢性疾患ケア・フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 服薬アドヒアランス向上</li> <li>• 疾患の改善・疾患マーカーの改善</li> <li>• 減量・禁煙・減酒の達成</li> <li>• 受診勧奨・受診率向上</li> </ul>

出所：各種調査、研究会議論を基に日本総研作成

## 【提言①】わが国では未実装であるが、海外では薬局薬剤師が実施する機能・役割

諸外国では、プライマリ・ケアの一員として重要な役割を担っている薬局薬剤師が、医師を中心とする他職種からのタスクシフトによる機能・役割を担う。長期的に日本にも実装するための議論が必要であると考ええる。

薬局薬剤師の機能・役割例	薬局薬剤師の価値
<b>慢性疾患の薬の処方（カナダ等）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>糖尿病や高脂血症等重症化するとコストがかかってしまう管理が重要となる疾患について、その薬の処方を行うこと</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>慢性疾患の適切な管理</li><li>医師の業務効率化</li><li>医療費適正化</li></ul>
<b>ワクチンの接種（米国・英国・カナダ等）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>インフルエンザ等のワクチン接種を保険薬局で実施し、その打ち手を薬局薬剤師が担うこと</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>医師の業務効率化</li><li>医療費適正化</li></ul>

出所：各種情報を基に日本総研作成

# 【提言②】薬局薬剤師の機能・役割や価値の計測・改善

まずは短期的に有望なKPIで薬局薬剤師の実態を計測し、PDCAサイクルを継続的に回すことで、薬局薬剤師の発揮する価値を拡大していくべきではないか。

	【認知症】		【がん】	【糖尿病】	【心不全】	【禁煙支援】
	早期発見	外来ケア	ターミナル・在宅ケア	重症化予防	重症化予防	
<b>機能・役割</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症を疑う患者に対する受診勧奨</li> <li>家族からの相談対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師やケアナー、介護者等との連携</li> <li>家族介護者の困りごと・介護負担等の把握・対応</li> <li>抗認知症薬の副作用状況の把握・対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗がん剤、医療用麻薬の調剤、無菌調剤</li> <li>薬物治療に伴う副作用発見と対応</li> <li>医師や看護師からの相談対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重症化予防のための服薬管理、健康指導</li> <li>合併症に対するケア、医師との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環器疾患に対する血圧コントロール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康サポート機能として薬局薬剤師主導の禁煙支援</li> <li>医師による禁煙外来のサポート</li> </ul>
<b>短期的に有望なKPI</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓認知症に関する研修会を受講している薬剤師*の在籍数</li> <li>✓薬局で認知症の簡易検査の提供体制の有無</li> <li>✓利用者・家族からの認知症に関する応需件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓認知症に関する研修会を受講している薬剤師の在籍数</li> <li>✓介護者からの相談応需件数（内容）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓がん末期のケアに関する研修を受講している薬剤師の在籍数</li> <li>✓抗がん剤、麻薬調剤の処方件数</li> <li>✓服薬フォローアップ件数</li> <li>✓トレーニングレポートによる医療機関への情報提供件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓糖尿病療養指導士（日本糖尿病療養指導士、地域糖尿病療養指導士）の在籍数</li> <li>✓糖尿病患者の服薬フォローアップを行っている件数</li> <li>✓糖尿病に関する患者指導件数</li> <li>✓服薬・治療アドヒアランスが改善した患者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓心不全に関する研修を受講している薬剤師の在籍数</li> <li>✓心不全療養指導士をもつ薬剤師の在籍数</li> <li>✓服薬フォローアップを行っている件数（家族含む対応）</li> <li>✓副作用等モニタリング（血圧と体重と自覚症状聞き取り）を行う患者件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓禁煙に関する相談応需件数</li> <li>✓利用者・地域住民に対する禁煙啓発活動の実施件数（内容）</li> </ul>

出所：日本総研作成

# 【提言③】プライマリ・ケアチームや国民からの薬局薬剤師の認知向上

臨床（教育）と研究を両立しながら、広報を進め認知向上を図ることが望ましいのではないかと。

## 【臨床（教育）】



- 薬局薬剤師の大学教育における多職種連携の推進
- 薬局薬剤師の卒後教育（OJT、Off-JT）の拡充

• 薬局薬剤師の研究人材の育成

• 多職種等との研究発表等における共同機会の拡充

## 【研究】



- 薬局薬剤師の研究機会の拡充・推進

## 【広報】

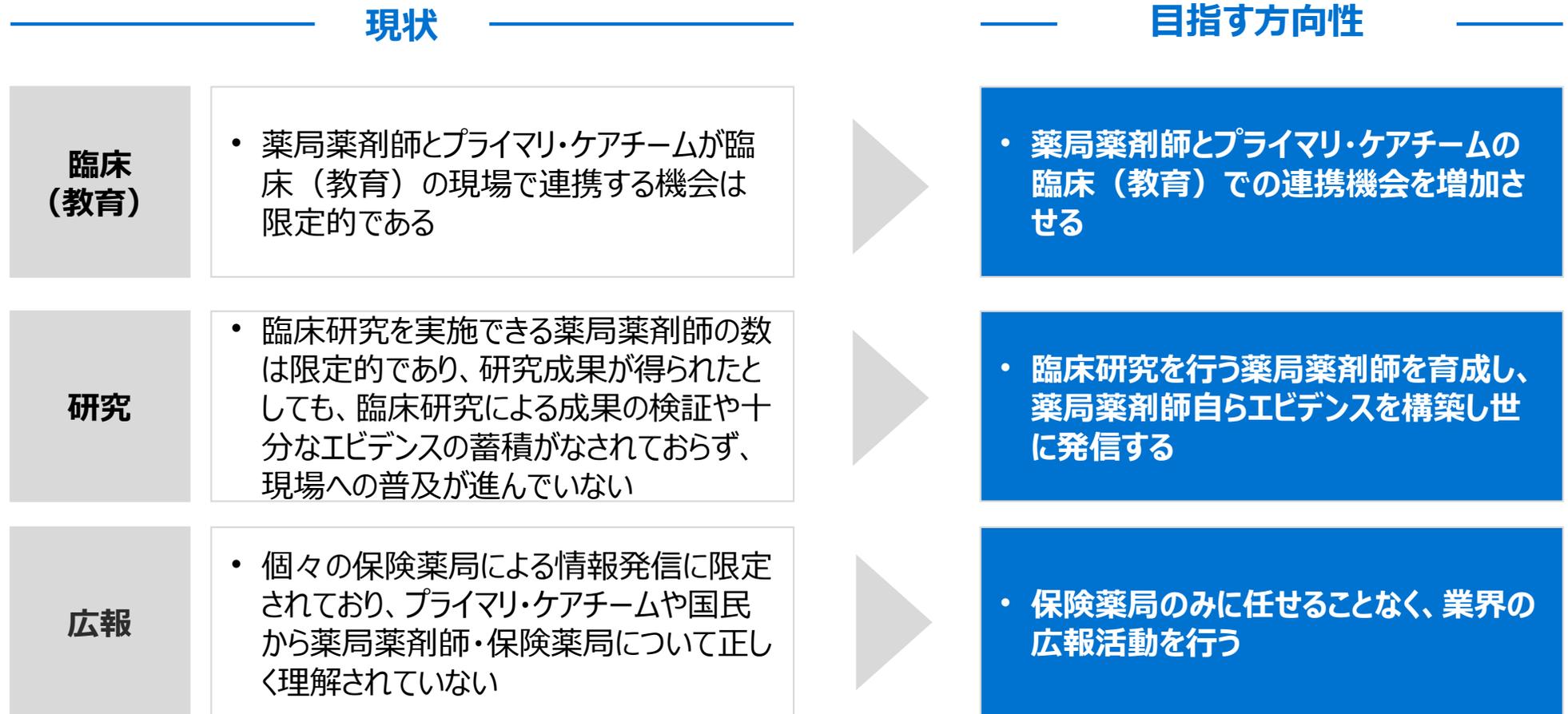


- 国民に対する情報発信
- 多職種団体との連携、多職種団体への発信

出所：日本総研作成

## 【提言③】現状と目指すべき方向性

薬局薬剤師とプライマリ・ケアチームの臨床（教育）での連携機会を増加、臨床研究を行う薬局薬剤師を育成を通じたエビデンスを構築・発信、業界としての広報活動を推進すべきである。



出所：日本総研作成

## 【提言③】認知向上方策の提言

大学教育・卒後教育の拡充、研究人材の育成・研究機会の拡充・推進、業界団体等や多職種団体との連携による情報発信、研究発表等における多職種等との共同機会の拡充を推進すべきである。

分類			方策（カッコ内は想定される主体者）	対象	
臨床（教育）	研究	広報		プライマリ・ケアチーム	国民
●			<b>【薬局薬剤師の大学教育における多職種連携の推進】</b> ・ 薬学教育・医学教育の多職種連携の教育のカリキュラムを組み込み、多職種と薬剤師と一緒に学ぶ機会を持つ（国）	●	
●			<b>【薬局薬剤師の卒後教育（OJT、Off-JT）の拡充】</b> ・ 薬剤師や医師等多職種と一緒に働いたり、一緒に研修を受けたりする仕組みを強化する（業界団体、企業）	●	
●	●		<b>【薬局薬剤師の研究人材の育成】</b> ・ 薬剤師で研究ができる人材を育成する（企業・業界団体）	●	
	●		<b>【薬局薬剤師の研究機会の拡充・推進】</b> ・ 科学的に正しい手法による価値のある臨床研究（DB研究、業務の自動化(例：薬歴)に関する研究等）を推進する（企業・業界団体）	●	
		●	<b>【国民に対する情報発信】</b> ・ 業界団体であるNPhAによる動画配信等の分かりやすい情報発信を行う（NPhA） ・ 地域住民への地域講座等の活用、テレビ番組やネットでの動画、SNSといった、若者から高齢者までを意識した全国レベルでのプロモーション活動を行う（業界団体、企業） ・ 薬局の機能を公開する仕組みの強化し、周知を行う（国、業界団体）	●	●
		●	<b>【多職種団体との連携、多職種団体への発信】</b> ・ 多職種連携の会議活用により、多職種向けに情報発信を行う（薬剤師、薬局）	●	
●	●	●	<b>【研究発表等における多職種等との共同機会の拡充】</b> ・ 薬剤師と多職種と一緒に研究発表する機会を設ける（日本・プライマリ・ケア連合学会等）	●	

出所：日本総研作成

## 【提言③】認知向上方策の提言

大学教育・卒後教育の拡充、研究人材の育成・研究機会の拡充・推進、業界団体等や多職種団体との連携による情報発信、研究発表等における多職種等との共同機会の拡充を推進すべきである。

分類			方策（カッコ内は想定される主体者）	対象	
臨床 （教育）	研究	広報		プライマリ・ ケアチーム	国民・患者
●			<b>【薬局薬剤師の大学教育における多職種連携の推進】</b> ・ 薬学教育・医学教育の多職種連携の教育のカリキュラムを組み込み、多職種と薬剤師と一緒に学ぶ機会を持つ（国）	●	
●			<b>【薬局薬剤師の卒後教育（OJT、Off-JT）の拡充】</b> ・ 薬剤師や医師等多職種と一緒に働いたり、一緒に研修を受けたりする仕組みを強化する（業界団体、企業）	●	
●	●		<b>【薬局薬剤師の研究人材の育成】</b> ・ 薬剤師で研究ができる人材を育成する（企業・業界団体）	●	
	●		<b>【薬局薬剤師の研究機会の拡充・推進】</b> ・ 科学的に正しい手法による価値のある臨床研究（DB研究、業務の自動化(例：薬歴)に関する研究等）を推進する（企業・業界団体）	●	
		●	<b>【国民に対する情報発信】</b> ・ 業界団体であるNPhAによる動画配信等の分かりやすい情報発信を行う（NPhA） ・ 地域住民への地域講座等の活用、テレビ番組やネットでの動画、SNSといった、若者から高齢者までを意識した全国レベルでのプロモーション活動を行う（業界団体、企業） ・ 薬局の機能を公開する仕組みの強化し、周知を行う（国、業界団体）	●	●
		●	<b>【多職種団体との連携、多職種団体への発信】</b> ・ 多職種連携の会議活用により、多職種向けに情報発信を行う（薬剤師、薬局）	●	
●	●	●	<b>【研究発表等における多職種等との共同機会の拡充】</b> ・ 薬剤師と他職種と一緒に研究発表する機会を設ける（日本・プライマリ・ケア連合学会等）	●	

出所：日本総研作成

## 【提言④】薬局薬剤師の機能・役割を発揮するための保険薬局のあり方

健康サポート薬局、認定薬局の役割の浸透、既存業務の効率化、保険薬局としての収益性改善を通じて、保険薬局が価値ある薬局薬剤師の活動を支えるべきではないか。

### I. 健康サポート薬局、認定薬局の役割の浸透



- 健康サポート薬局、認定薬局（地域連携薬局・専門医療機関連携薬局）が発揮する役割の実態を把握・改善する
- 専門医療機関連携薬局の対象疾患拡充する

価値のある機能・役割を発揮する  
薬局薬剤師の活動を支える

### II. 既存業務の効率化



- 対物業務へのテクノロジーの活用を推進する
- 薬剤師以外の補助人材活用を推進する

単純業務から薬局薬剤師を開放し、  
価値ある機能・役割を発揮する  
時間を確保する

### III. 保険薬局としての収益性改善



- 薬局・薬剤師が発揮する機能・役割や価値に基づく調剤報酬の適正化を推進する
- 調剤報酬に依存しない、保険外サービス等新規事業を拡充する

価値ある機能・役割を発揮する  
薬局薬剤師に投資する力を備える



保険薬局が薬局薬剤師を  
支える



出所：日本総研作成

# 本提言に関する骨太への提案

薬局及び薬局薬剤師の機能・役割の明確化、KPI設定・測定による機能・役割の浸透、臨床教育・大学教育における多職種連携の充実、健康サポート薬局・認定薬局の普及浸透に関する記載を提案する。

提案項目(再掲)	骨太2019-2022 (抜粋編集)	骨太への記載提案	
<p><b>提言①</b>  <b>【薬局薬剤師の機能・役割や価値の明確化】</b>  <b>&lt;多職種連携の推進&gt;</b>                      医師と連携した処方評価や服薬情報連携（薬薬連携）の強化  <b>&lt;患者指導の推進&gt;</b>                      服薬指導、健康指導・受診勧奨、退院後の患者教育・フォローアップの強化  <b>&lt;各種疾患に対するケア&gt;</b>                      認知症の早期発見・外来ケア、がんのターミナル・在宅ケア、糖尿病の重症化予防、心不全の重症化予防、禁煙支援における、薬局薬剤師が担う機能・役割を明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン資格確認について、保険医療機関・薬局に、2023年4月から導入を原則として義務付けるとともに、導入が進み、患者によるマイナンバーカードの保険証利用が進むよう、関連する支援等の措置を見直す(2022)</li> <li>かかりつけ薬剤師・薬局の普及を進めるとともに、多剤・重複投薬への取り組みを強化する。(2021) 症状が安定している患者について、医師および薬剤師の適切な連携により、医療機関に行かずとも、一定期間内に処方箋を反復利用できる方策を検討し、患者の通院負担を軽減する。(2021)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬局および薬局薬剤師の機能・役割を明確化することが必要。特に、多職種連携や患者指導を推進するべき。</li> <li>認知症、がん、生活習慣病、禁煙等、日常的なケアが必要な疾患については、薬剤師がケアできる役割・機能を明確化する。</li> </ul>	<p>深堀</p> <p>新規</p>
<p><b>提言②</b>  <b>【計測・改善による、薬局薬剤師の機能・役割や価値の浸透】</b>                      薬局薬剤師の機能・役割に関するKPIを計測し、改善を推進</p>	<p>記載なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬局および薬局薬剤師の機能・役割に関するKPIを設定・測定し、PDCAサイクルを回すことで、機能・役割を浸透させる。</li> </ul>	<p>新規</p>
<p><b>提言③</b>  <b>【プライマリ・ケアチームや国民からの薬局薬剤師の認知向上】</b>                      臨床（教育）、研究薬剤師の大学教育における多職種連携の推進                      薬剤師の卒後教育（OJT、Off-JT）の拡充                      薬剤師の研究人材の育成                      多職種等との研究発表等における共同機会の拡充                      薬剤師の研究機械の拡充・推進                      国民に対する情報発信、多職種団体との連携・発信</p>	<p>記載なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床教育、大学教育において、多職種連携を充実し、その重要性を認知させることで、卒後に多職種が連携しやすい状況を作る。</li> </ul>	<p>新規</p>
<p><b>提言④</b>  <b>【薬局薬剤師が機能・役割を発揮するための保険薬局のあり方】</b>                      健康サポート薬局、認定薬局の役割の浸透                      既存業務の効率化                      保険薬局としての収益性改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般用医薬品等の普及などによりセルフメディケーションを進めていく中で、健康サポート薬局についても、その効果を検証しつつ取り組みを進める。(2019)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康サポート薬局、認定薬局についての効果を明確に示し、さらに普及・浸透させるための取り組みを推進。</li> </ul>	<p>深堀</p>

**深堀** : 既存の取り組みの拡大・深化

**新規** : 新たな取り組み

出所：日本総研作成

## 持続可能で質の高い医療提供体制構築に向けた研究チーム 株式会社日本総合研究所

### <持続可能で質の高い医療提供体制構築に向けた研究チーム>

本提言とりまとめ	川舟 広徒 (リサーチ・コンサルティング部門 マネジャー)
社内アドバイザー	成瀬 道紀 (調査部 副主任研究員)
	川崎 真規 (リサーチ・コンサルティング部門 シニアマネジャー)
社内メンバー	リサーチ・コンサルティング部門
	小倉 周人 長崎 俊憲

### <連絡先>

〒141-0022 東京都品川区東五反田-2-18-1

大崎フォレストビルディング

TEL 03-6833-6300 FAX 03-6833-9480

川舟 広徒 マネジャー

E-mail: kawafune.hiroto@jri.co.jp

本提言は一般社団法人日本保険薬局協会からの資金による調査研究業務の成果物ですが、その内容については「持続可能で質の高い医療提供体制構築に向けた研究チーム」が自由かつ独立性のある調査研究によって取りまとめたものです。  
また、本提言は「持続可能で質の高い医療提供体制構築に向けた研究チーム」の見解であり、日本総研の公式見解を示すものではありません。